

今日の説教のポイント <ヨナ書2章>

①神様に注目すること、それがこの話を読むときに大切なこと。

神様の命令に従わずに逃げ出したヨナは逃げ切れず、とうとう異邦人たちによって海に放り込まれました。普通なら、私たちはヨナは神様によって裁かれて死の罰を受けたのだと思います。しかし、ヨナ書は予想外の展開を見せるのです。神様が巨大な魚にヨナを助けさせられるのです。私たちが聖書から示される神様はこのような神様なのです！ 「裁かれて当然」と思う者を救い給う神様なのです！ どんな苦難の中に置かれた時にも、聖書のこの神様に向かい出す時に、必ず光が見えて来るのです！ 死から救い出されたヨナには、新たな人生が待っていました。神様から託された務めに仕える人生でした。この神様を見上げて生き出すならば、ヨナと同じような人生が私たち一人ひとりにも用意されているのです！

②ヨナと私たち自身は、どのような点でつなげて考えられるか？

このヨナ書の面白さは、この2章で示されたような深い罪の赦しを経験して新たな人生を歩み出したヨナですが、その後、また神様に不満をぶつける話が記されている点にあります(4:1)。自分は神様に罪赦されて生かしていただいているのに、ニネベの人々の罪は赦せなかったのです。私たち人間は、自分がしでかした罪深さに気づいた時には謙虚になりますが、すぐまたそれが分からなくなる存在なのです。

「ヨナの場合は神様に罪を犯したのだからそれを赦してもらった喜びは分かるが、私の苦しみは理由が分からない。神様に『なぜですか』と問いたい」、そう思う人がいるかもしれません。しかし、そのように神様に問えると思える所に、なお傲慢の罪、自分の罪が分からないという罪が現れ出ているのです。イエス・キリスト誕生の時、天使は、「その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」、と告げました(マタイ福音書 1:21)。このようなどうしようもなく深い私たちの罪。神様は、そのような罪をも、御子を十字架に架けて赦して下さったのです。ヨナに示された神様の愛は、イエス様によって示された大いなる神様の愛の先触れなのです！